

2023 年度事業報告書

公益財団法人医食同源生薬研究財団

当財団は、太古より生薬として重宝されてきた農作物や水産物によって人々を元気にし、年をとっても元気澁刺で働ける世に変える、いわゆる「医食同源」の社会実装による新たな社会の構築を目指し、2021年4月14日に設立、2022年4月1日に公益財団法人の認定を受け事業を行っている。

当財団では、健康に良い、疾患を予防するということが経験的にわかっているものの、その医学的根拠の脆弱性から広い世の中に埋もれてしまっている農水産物由来の食品について、その効果・効能について医学的根拠となる実証的研究を実施・支援し、その結果を広く公知することによって、医食同源の考えに基づく食生活の改善を促進し、もって食を通じた人類の心身の健全な発達や健康の維持に寄与すること、並びに生活習慣病の蔓延による我が国の医療費増大の抑制に、社会実装の実現によって貢献することを事業の目的としている。その目的を果たすべく、2023年度は財団主導研究、研究助成、貢献者への褒賞、広報活動を実施した。

1 財団主導研究

(1) 幼稚園・保育園における給食で提供される米飯の種類が COVID-19 感染に与える影響の検討（研究協力機関：ミールケア社ほか）

2023年度で研究終了。給食で加工玄米を摂取している園児は、通常の白米を摂取している園児と比較して、新型コロナウイルス感染症に罹患しにくい傾向が確認できた。その内容については、論文化の上、2023年8月にニュースリリースを行ったほか、財団HPに研究成果として掲載した。

(2) 玄米サプリメントの継続的服用による免疫機能および睡眠の質の維持・改善効果の検証（東北大学との共同研究）

20～64歳の健康な男女に、1日1回、12週間、玄米の成分を含有したサプリメントまたはプラセボを摂取してもらい、玄米サプリメントを摂取した群とプラセボを摂取した群の免疫機能や腸内細菌叢の状態、睡眠の質、心身の健康状態や生活の質を比較し、玄米の健康効果を明らかにするだけでなく、その作用機序も解明する。研究は、2022～2024年度の予定。

- (3) 保育所給食の質が新型コロナウイルス感染症・インフルエンザ等の感染状況に及ぼす影響（中村学園大学との共同研究）

福岡市内の約 300 の保育所を対象に、主としてアンケート方式で給食内容と新型コロナウイルス感染症等の罹患状況等の情報を収集し、両者の関係を解析する。研究は、2022～2024 年度の子定。

- (4) 高タンパク質かつ良食味米の育種およびその評価（東京農業大学、農業・食品産業技術総合研究機構との共同研究）

日本人の重要な食料である米について、育種情報インフラを利用した高タンパク質でかつ良食味な米の作出及びその利用法の開発を行う。3 者間の共同研究契約の締結を経て、2024 年 2 月から研究開始。研究は 2025 年度までの子定。

- (5) 脂肪肝合併肥満症患者を対象とした玄米サプリメント摂取による脂肪肝改善を検証するプラセボ対照二重盲検ランダム比較試験（神戸大学医学部附属病院との共同研究）

代謝性機能障害に伴う脂肪肝(NAFLD)患者に、1 日 1 回、12 週間、玄米の成分を含有したサプリメントまたはプラセボを摂取してもらい、12 週後の脂肪肝改善効果を評価する。2023 年度のプロトコル委員会で研究実施計画が承認された。研究は、2025 年度までの子定。

- (6) 以上のほか、当財団と 2022 年度に包括連携協定を締結した大阪府泉大津市が展開する「食」に関する取組みにおいて、同協定に基づいて健康効果の実証を図るため、住民へのアンケート調査や健康データの分析・解析等を行った。また、長野県南箕輪村、島根県安来市及び大阪府田尻町とも同じような内容の包括連携協定を締結し、同種の取組を進めている。なお、ここで得られたデータ類の蓄積が、財団主導研究の一環であるメタアナリシス手法による研究実施の布石となるものである。

2 研究助成事業

(1) 研究助成

研究助成募集要綱に基づいて公募し、28 件の応募があった。選考委員会での審査を経て、以下 5 件を採択した。

No.	研究課題名	所属・氏名
1	ステビア配糖体のプレバイオティクス機能の解明：腸内環境への影響と生活習慣病予防への応用	関西医科大学 医学部 衛生・公衆衛生学講座 講師 村上 由希
2	次世代プレバイオティクス資源としての未利用・低利用褐藻類	東京海洋大学 学術研究院 食品生産科学部門 教授 久田 孝
3	機能性表示食品の開発に向けた北海道産紅藻ダルス (Devaleraea inkyuleei) 由来ペプチド摂取による血圧低下効果に関するヒト臨床試験	有限会社高木商店 次長 吉積 一真
4	非経口摂取の療養者に対する食用ゴマ油を用いた口腔清拭手法の確立と効果の評価	千葉大学大学院 看護学研究院 看護学研究科 看護病態学 講師 小川 俊子
5	米ぬか由来機能性素材による腸内細菌の変動を介したがん免疫賦活化作用	富山県立大学大学院 工学研究科 生物・医薬品工学専攻 准教授 古澤 之裕

(2) 論文助成

論文助成募集要綱に基づいて公募し、第1回は1件の応募があったが、選考委員会での審査を経て、採択なし。第2回は応募がなかった。

3 貢献者への褒賞

褒賞者募集要綱に基づいて公募し、3件の応募があった。審査委員会での審査を経て、次の者を褒賞受賞者に選定した。

No.	所属	氏名
1	前 医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 所長 現 国際医療福祉大学大学院 医学研究科 公衆衛生学専攻 教授	津金 昌一郎

4 広報活動

(1) ホームページでの広報

当財団における研究成果や研究助成情報、シンポジウム・講演会情報などを告知した。

(2) シンポジウム・講演会の開催

- ① 「食料安保を医食同源から考える」をテーマにしたシンポジウムを東京農業大学と共催した。

【「食料安保と医食同源」シンポジウム】

日時：2023年7月13日（木）14:30～16:30

場所：東京農業大学 世田谷キャンパス 国際センター2階ホール

開催形式：ハイブリッド（会場およびWEB）

内容：農林水産省 農産局 農業環境対策課 佐藤夏人課長による講演、東京農業大学 応用生物化学部 農芸化学科 山本祐司教授による講演、当財団 代表理事による講演、登壇者によるトークセッション、懇親会

以上